

教員活動状況報告書

提出日：令和 4 年 3 月 10 日

所 属： 獣医学部 動物応用科学科

氏 名： 伊藤潤哉 職位： 教授

役 職： 動物応用科学科長

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト(必修，選択)（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。

※分量の目安：2～5行（80字～200字）（科目表以外）

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

科目名	学科・専攻	必，選，自	配当年次	受講者数
動物繁殖学	A	必修	2	131
動物分子生殖科学	A	選択	3	81
動物受精卵移植論	A	選択	3	41
動物生殖制御論	A	選択	4	20
生殖生理・不妊症学	M	選択	4	20
動物繁殖学実習	A	選択	3	67
家畜人工授精特別実習	A	選択	4	36
専門ゼミ	A	必修	3	6
科学の伝達	A	選択	4	10
卒業論文	A	必修	4	10

動物繁殖学：動物繁殖学は，動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。必修科目であることから，動物，とくに哺乳類に共通した繁殖生殖メカニズムや，一方で動物種ごとの違いについて基礎的な部分を身に着けるよう講義を行った。また，学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている。

動物分子生殖科学：動物分子生殖科学は，動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。動物繁殖学に引き続き，動物，とくに哺乳類に共通した繁殖生殖メカニズムや，一方で動物種ごとの違いについて「分子」をターゲットとして，動物繁殖学の内容についてより深く理解できるように講義を行った。また，学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症

や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている。

動物受精卵移植論：動物受精卵移植論は、動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。動物繁殖学・動物分子生殖科学に引き続き、動物、とくに哺乳類における共通した繁殖生殖メカニズムや、一方で動物種ごとの違いについて「受精卵移植」をターゲットとして、動物繁殖学・動物分子生殖科学の内容についてより深く理解できるように講義を行った。また、学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている。

動物生殖制御論：動物生殖制御論は、動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。動物繁殖学・動物分子生殖科学・動物受精卵移植論に引き続き、動物、とくに哺乳類における共通した繁殖生殖メカニズムや、最先端の生殖制御技術を紹介することで、これまで学んできた動物繁殖学・動物分子生殖科学・動物受精卵移植論の内容についてより深く理解できるように講義を行った。また、学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めて講義を行っている。

動物繁殖学実習・家畜人工授精特別実習：繁殖学・生殖学は動物応用科学の中でも根幹をなす学問である。動物繁殖学・動物分子生殖科学等で学んだ動物、とくに哺乳類における共通した繁殖生殖メカニズムや、一方で動物種ごとの違いについて、実習を通して理解を深める。また、学生がより興味を持てるように現在社会問題となっている不妊症や家畜の繁殖率の低下など時事問題と絡めた実習を行っている。

専門ゼミ・科学の伝達・卒業論文：文献紹介や **progress report** を通して、双方向の演習を行うことを心掛けている。

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）

基本的には、「社会問題など身近な話題を提供することなどで学生の学問に対する興味を高める」「アクティブラーニング的要素を取り入れる」「双方向性を重要視し、講義中あるいは講義後に学生に対する質問を多く投げかける」を通して、学生が自主的に学び、自分の興味を追求できるようにする。その中で、データサイエンスやサイエンスリテラシーが次第に身につくように工夫する。これを通して、答えのない実社会で、臨機応変に対応して、自主的に作業し、成果をだせるような人材育成を目指す。

※分量の目安：8～12行（320字～480字）

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）

2. と同じです。

※分量の目安：15～24行（600字～960字）

アクティブラーニングについての取組

上述の通り、学生自身が課題に対してインターネットなどを用いて調査し、課題を提出するなど、多くの座学科目でアクティブラーニングを取り入れている。実習においても、技術習得に加え、課題や目的を設定させ、その目的から、理論仮説、作業仮説の設定、データの解析、考察を自らが実施しており、深いアクティブラーニングが実施できている。

ICTの教育への活用

授業中に出す課題に関しては、1週間以内で学理への提出を求めているため、すべての学生がPCを用いて対応することになる。また実習・演習においても、スライド発表もすべてオンラインでできるように指導し、ICTを活用している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

① 教育（授業、実習）の創意工夫（A）

② 学生の理解度の把握（A）

③ 学生の自学自習を促すための工夫（B）

④ 学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A）

⑤ 双方向授業への工夫（A）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

⑥ 国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

※分量の目安：15～24行（600字～960字）

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

評価は悪くなかったので引き続き同様の授業を行った。

② ①の結果はどうでしたか。

非常に高い評価を得た。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

引き続き同様の授業を行い、さらに学生が興味を持つ内容を盛り込む。

※分量の目安：4～7行（160字～280字）

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

毎回の講義に関する感想・質問を次回講義で解説し、また学生が考える取り組みを行っている。

<p>②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価 授業評価で高評価を得た。</p> <p style="text-align: right;">※分量の目安：4～7行（160字～280字）</p>
<p>7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況） オンラインで参加し、教育理念の構築の重要性がわかった。この概念形成をもとに、現在、教育構成を再考している。</p> <p style="text-align: right;">※分量の目安：1～2行（40字～80字）</p>
<p>8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン） 教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。 サイエンスリテラシーとコンピテンシーの向上を目指し、授業実習においてさらにこの観点を入れた授業実習に取り組む。</p> <p style="text-align: right;">※分量の目安：3～6行（120字～240字）</p>
<p>9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ</p>

*A4 4枚程度（A4 1枚(目安 1行 40文字×36行 1440文字)

有・無

該当を○で囲む